

2023年12月24日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第66巻第38号(通算3370号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう
週報

教会標語

かみさま 神様がすべての人と共におられる
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人が
みな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

クリスマス(降誕日)礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

前奏 黙祷 AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)
招きの詞 詩編 113編 1-9節
賛美歌 21-242番「主を待ち望むアドヴェント」(©JASRAC)

クランツ点灯のことば
交拝と賛美歌 21-267番「ああベツレヘムよ」(©著作権消滅)
賛美歌 21-252番「羊はねむれり」(©日本基督教団出版局)

聖書 ルカによる福音書 2章 1-20節
メッセージ「夜通し働くあなたへ」 水谷 憲 牧師
賛美歌 21-258番「まきびとひつじを」(©讚美歌改訂委員会)
聖餐 ユーカリスト 水谷 憲 牧師

共同のお祈りと、平和のあいさつ
賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)
主の祈り

献げ物(*)
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)
祝福 水谷 憲 牧師
後奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)
報告 (8頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

*「献げ物(献金)」は受付にある献金箱にお入れください。

招きの詞 詩編 113 編 1-9 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

- 1 ハレルヤ。／主の僕たちよ、賛美せよ。／主の名を賛美せよ。
2 主の名がたたえられるように／今より、とこしえに。
3 日の昇る所から日の沈む所まで主の名は賛美される。
4 主はすべての国を超えて高くいまし／その栄光は天を超える。
5 私たちの神、主のような方がほかにあろうか。／高きところに座し
6 天にあっても地にあっても／低きに下って御覧になる方。
7 弱い人を塵の中から起こし／貧しい人を芥の中から高く上げ
8 高貴な人々と共に／民の中の高貴な人々と共に座らせてくださる。
9 子のない女を家に住まわせ／子らを授かり喜ぶ母にしてください。／ハレルヤ。

クランツ点灯のことば

神様、イエス様のお誕生をお祝いするクリスマスの時をありがとうございます。
イエス様は暗闇の中に灯った光です。イエス様がなされたように、私たちもこの
光を分かち合い、灯し合う歩みができますように。イエス様がこの世に来られた
ことを、私たちが心から感謝してお祝いすることができますように。

交禱と賛美歌「クリスマスのリタジー」

司式者

今も、この世界では戦争が続けられていて、多くの人々が心と身体に痛みを抱えながら、このクリスマスの時を迎えています。身体的な苦しみ、精神的な苦しみ、経済的・社会的な苦しみなど、様々な苦しみや痛みを抱えておられる方々があります。それらすべての方々のために祈ります。

暗闇の中を歩いた人たちは、偉大なる光を見ました。深い影の地に生きる人たちの上に、光が照らされました。彼らをつないでいた軛と、その人たちに課せられていた重荷を、神様は打ち砕かれました。

みんな

憐れみ深い神様。私たちはそれぞれに苦しい思いと記憶を抱えつつ、今を生きています。そんな私たちと仲間たちのために、このクリスマスに私たちの祈りをお聞きください。今日を生きるための力と、明日を迎えるための勇気、そして過去を覚えるための平安を、どうぞお与えください。喜びと悲しみ、死と命、そして絶望と

希望、確かなる約束を、私たちと共に分かち合ってください。イエス・キリストと共にあって祈ります。アーメン。

賛美歌『讚美歌 21』267 番 (1 節) 「ああベツレヘムよ」

司式者

ここに5本のろうそくが灯されたアドベント・クランツがあります。イエス・キリストの降誕を待ち望みつつ灯ともしたこのろうそくの一つ一つには意味があります。一つ目のろうそくは、先に天に召された私たちの大切な人たちを覚えるためです。しばらく静かに、彼らの名前、声、そしてこの季節に私たちと彼らを結びつける思い出を思い出しましょう。そして、私たちの内にある彼らの命を感謝しつつ、神様の前に彼らを心に抱きましょう。(しばらく黙祷)

みんな

命の源^{みなもと}である神様、私たちはそれぞれに大切な人たちを、この一年もあなたの御許^{みもと}に送りました。そして、その人たちがあなたの御許^{みもと}で安らいでいることを信じています。そして彼らがあなたからの「贈り物」として、私たちに与えられたことも感謝いたします。私たちは信じています。皆があなたからの「永遠の命」を生き、彼らとも一緒に生きているのだということ。この真理が今も、そしてこれからも、私たち皆の支えとなりますように。いつも共にいてくださるあなたが、私たちの真の故郷^{ふるさと}を、何度でも思い起こさせてください。また周囲の人々のうちに、出来事のうちに、また自然の美しさのうちに、あなたからの喜びを見出させてくださいますように。すべての悲しみをご存知である神様、悲しみと痛み^{うめ}に呻くこの心を、どうか慰めてくださいますように。アーメン

賛美歌『讚美歌 21』267 番 (2 節) 「マリアを母とし」

司式者

二つ目のろうそくは、喪失の痛みに対するともし火です。自分や家族の健康の喪失、家族や友人との関係性の喪失、仕事とお金の喪失、ストレスによってもたらされた日々の生活からの喜びの喪失……。これら様々な痛みを集めて、神様に差し出します。神様、私たちに、心からの平安を与えてください。

みんな

神様、私たちは、あなたに信頼したいと願っています。しかし、すぐに心の中が恐れと不安でいっぱいになってしまいます。私たちが経験することすべてにおいて、あなたがいつも共にいてくださることを覚えさせてください。生かされている命の不思議を感謝し、あなたの守りと導きの約束をハッキリと心に刻んでくださいますように。アーメン

賛美歌『讚美歌 21』 267 番 (3 節) 「人はみな眠り」

司式者

三つ目のろうそくは、人生における方向性や指針を失っている人たちのためです。出エジプトを導かれた神様は、古代イスラエルの民を、^{あれの}荒野を通して、新しい地へと導かれました。今、私たちはこれから進むべき方向性を切実に求めています。今、自分がどこにいて、これからどこに向かうべきなのかをお示してください。神様、あなたは力強くおっしゃいます。「恐れてはならない。私があなただの前に行く」と。

みんな

私たちの深みにおられる神様。どうか私たちを導き、私たちが正しい道の上にいることを教えてください。私たちの命を、あなたの^{みこころ}御心に沿ってお用いくださいますように。私たちが失ったものをすべて、あなたの^{みもと}御許に置いてください。アーメン

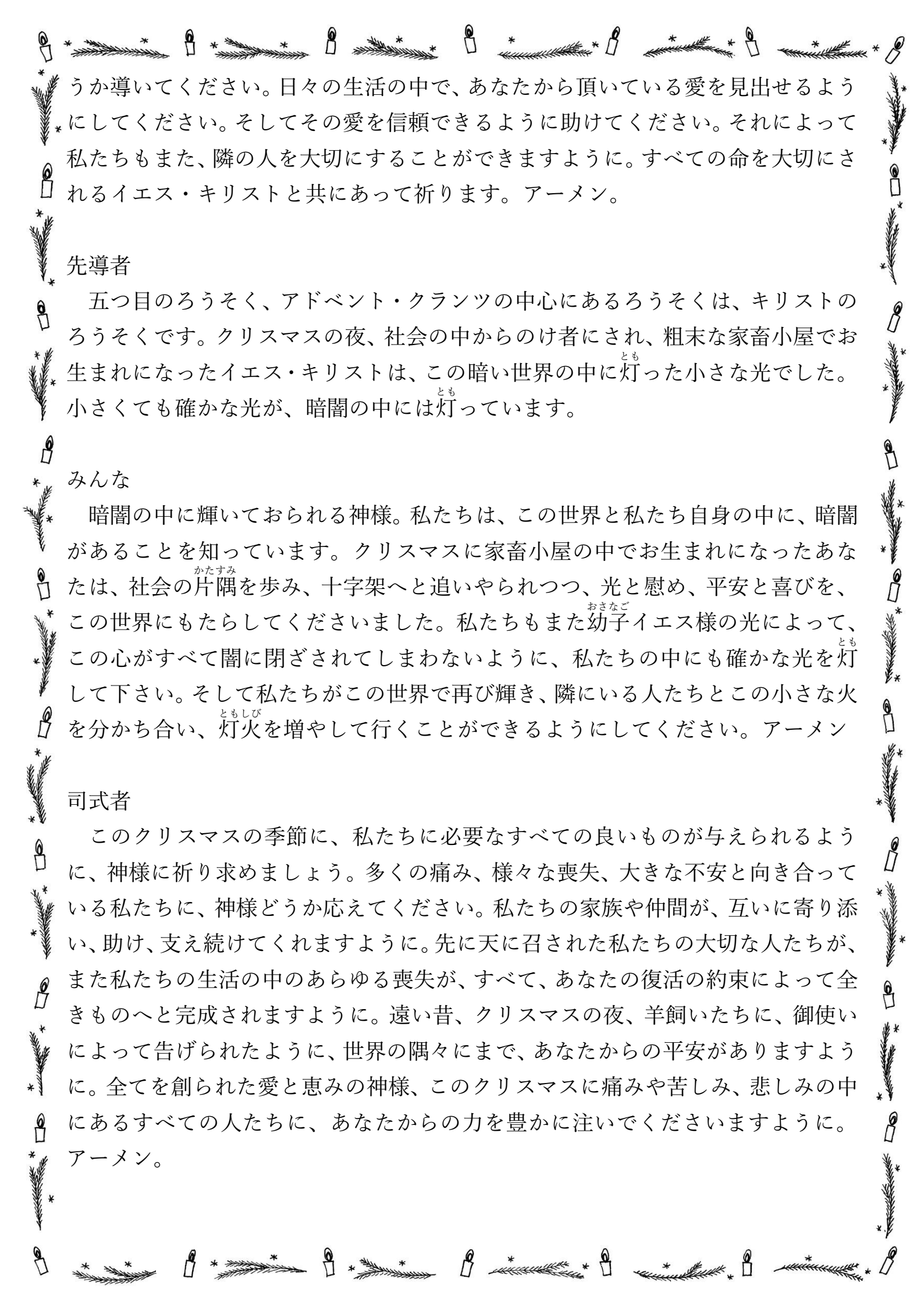
賛美歌『讚美歌 21』 267 番 (4 節) 「ああベツレヘムの」

司式者

四つ目のろうそくは、希望のしるしです。クリスマスの物語が、私たちに指し示している希望のしるしです。私たちの命を分かち合ってください。神様が、すべての涙が^{ぬぐ}拭かれる時と場所を約束してくださっていることを覚えます。

みんな

神様、どうか私たちの沈んだ心を引き上げてください。道を見失っている時、ど



うか導いてください。日々の生活の中で、あなたから頂いている愛を見出せるようにしてください。そしてその愛を信頼できるように助けてください。それによって私たちもまた、隣の人を大切にすることができますように。すべての命を大切にされるイエス・キリストと共にあって祈ります。アーメン。

先導者

五つ目のろうそく、アドベント・クランツの中心にあるろうそくは、キリストのろうそくです。クリスマスの夜、社会の中からのけ者にされ、粗末な家畜小屋でお生まれになったイエス・キリストは、この暗い世界の中に灯った小さな光でした。小さくても確かな光が、暗闇の中には灯っています。

みんな

暗闇の中に輝いておられる神様。私たちは、この世界と私たち自身の中に、暗闇があることを知っています。クリスマスに家畜小屋の中でお生まれになったあなたは、社会の片隅^{かたすみ}を歩み、十字架へと追いやられつつ、光と慰め、平安と喜びを、この世界にもたらしてくださいました。私たちもまた幼子イエス様の光によって、この心がすべて闇に閉ざされてしまわないように、私たちの中にも確かな光を灯して下さい。そして私たちがこの世界で再び輝き、隣にいる人たちとこの小さな火を分かち合い、灯火^{ともしび}を増やして行くことができるようにしてください。アーメン

司式者

このクリスマスの季節に、私たちに必要なすべての良いものが与えられるように、神様に祈り求めましょう。多くの痛み、様々な喪失、大きな不安と向き合っている私たちに、神様どうか応えてください。私たちの家族や仲間が、互いに寄り添い、助け、支え続けてくれますように。先に天に召された私たちの大切な人たちが、また私たちの生活の中のあらゆる喪失が、すべて、あなたの復活の約束によって全きものへと完成されますように。遠い昔、クリスマスの夜、羊飼いたちに、御使いによって告げられたように、世界の隅々にまで、あなたからの平安がありますように。全てを創られた愛と恵みの神様、このクリスマスに痛みや苦しみ、悲しみの中にあるすべての人たちに、あなたからの力を豊かに注いでくださいますように。アーメン。



聖書 ルカによる福音書 2章 1-20節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

¹その頃、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令ちよくれいが出た。²これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録であった。³人々は皆、登録するために、それぞれ自分の町へ旅立った。⁴ヨセフもダビデの家系であり、またその血筋であったので、ガリラヤの町ナザレからユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。⁵身重になっていた、いいなずけの MARIA と一緒に登録するためである。⁶ところが、彼らがそこにいるうちに、MARIA は月が満ちて、⁷初子ういごの男子を産み、産着うぶぎにくるんで飼葉桶に寝かせた。 ^a宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである。

⁸さて、その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。⁹すると、主の天使が現れ、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。¹⁰天使は言った。「恐れるな。私は、すべての民に与えられる大きな喜びを告げる。¹¹今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。¹²あなたがたは、産着にくるまって飼葉桶に寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである。」¹³すると、突然、天の大軍が現れ、この天使と共に神を賛美して言った。

¹⁴「いと高き所には栄光、神にあれ／地には平和、^b御心みこころに適う人にあれ。」

¹⁵天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行って、主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。¹⁶そして急いで行って、MARIA とヨセフ、また飼葉桶に寝ている乳飲み子を探し当てた。¹⁷その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使から告げられたことを人々に知らせた。¹⁸聞いた者は皆、羊飼いたちの ^c話を不思議に思った。¹⁹しかし、MARIA はこれらのことをすべて心に留めて、思い巡らしていた。²⁰羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の告げたとおりだったので、神をあが崇め、賛美しながら帰って行った。

(脚注 a: 別訳「客間」、b: 直訳「神に喜ばれる人にあれ」、c: 別訳「話に驚いた」)



《先週のメッセージより》12月17日 第3アドヴェント礼拝

「御子の生まれるところ」より

牛田匡牧師

聖書 マラキ書 3章19-24節

クリスマスが近づいて来ましたが、ウクライナでも、パレスチナでも一向に争いが止まず、戦争が続けられています。この同じ地球の中でクリスマスを待ち望み、期待に心躍らせている豊かな人たちがいる一方で、今日の命をつなぐ食べ物にも、横たわる場所にも事欠く人たちがいます。大切な仲間や家族を失い、生きる希望を見出せなくなっている人たちもいます。今、絶望の中にいる人たちにとっては、一刻も早く「裁きが来てほしい、救いが来てほしい」という願いが切実なものでしょう。しかし、聖書が繰り返し述べているのは、「いつか来る神、やがて来る神」と「もう既に来ている神、いつも共にいる神」は同じだということです。

深い悲しみや絶望のただ中にある時、共にいてくれて、働きかけてくれるという神の存在など、全く感じられないという時も、確かにあるでしょう。全く神の存在を感じられず、神から見放され、見捨てられたように感じてしまう時もある。その一方で、深い暗闇の中にあっても、小さな光が灯されたと感じて、神様が隣にいてくれると感じることが出来る時もあるのではないかと思います。そのどちらが良いとか悪いとか、優れているとか劣っているとか、信仰が薄いとか篤いとか、そのようなことは誰も決して言うことは出来ません。同じ一人の人であっても、時と場合によってその気持ちは大きく揺れ動くのは当たり前のことです。

クリスマスに目に見えない神が、目に見える形として、肉体を持った人間として生まれて来たということ。そして「私に従いなさい」と言われたこと。それは、私たちもまたイエス様の言葉と振る舞いに従って歩むように招かれているということであり、また私たちの手を通して、この世界に神様の働きが表されて行くということなのではないかと思います。御子の生まれる所、それは2000年前のパレスチナであるだけでなく、現代の紛争地域、破壊と飢餓と貧困にあえぐ地域でもあり、また「今ここ」でもあります。「インマヌエル（私たちと共におられる神）」とも呼ばれるイエス様（マタイ1:23）が、今も確かに共にいてくださるということに信頼して、今ここから私たちに来ることを、誠実に努めて行きたいと願います。この世界を癒やす義の太陽の熱、お日様のぬくもりを隣の人と一緒に分かち合っていく歩みへと、私たちは今日もここから導かれていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 (12月17日) 第3アドヴェント礼拝

礼拝出席 大人5名 献金 大人5,000円 中継視聴者数11回
キッズ・クリスマス 参加者 子ども2名 大人5名 感謝

◎次週 2023年12月31日(日) 歳末礼拝(降誕節第1主日礼拝)

招きの詞 イザヤ書 11章6節

聖書 イザヤ書43:1、ヨハネの手紙一4:16、ローマの信徒への手紙14:8、
マタイによる福音書28:20、フィリピの信徒への手紙4:4

賛美歌 54-410番(©P.D.)、21-469番(©JASRAC)、こ改99番(©出版局)
礼拝の中で、12月の誕生者祝福式を行います。

◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」は、ホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。それぞれ方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。
- ・12月の釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」は、休会です。釜ヶ崎・いこい食堂では毎年12月のクリスマスには、諸教会や諸団体、賛同者の方々から集められたお弁当をお配りしています。今年も日本コイノニア福祉会の3施設(旭丘まぶね保育園、特別養護老人ホーム大阪好意の庭、特別養護老人ホーム第二好意の庭)から、65食のお弁当を、明日に作ってお届けする予定です。
- ・《出典》2-5頁:「クリスマスのリタジー」(以下を参照して改変)
Heather Hill 2012. “Blue Christmas Service: When Christmas Hurts”
(<https://youngclergywomen.org/blue-christmas-service-when-christmas-hurts/>)
中村佐知 2016. “(翻訳) ブルークリスマスのリタジー” 「ミルトスの木かげで」
(<http://rhythmsofgrace.blog.jp/archives/14789699.html>)
- ・今年度の「クリスマス献金」を集めています。献金先は「関西学院大学神学部後援会」「日本基督教団部落解放センター」「一般社団法人神戸国際支縁機構」「生活困窮者支援(釜ヶ崎・いこい食堂への毎月のおにぎり支援基金、他のために)」「関西労働者伝道委員会」と「アハリー・アラブ病院を支援する会」の6つの活動団体です。各団体の詳細や活動内容については、別紙にそれぞれの団体のウェブサイトなどを掲載してありますので、ご参照ください。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
12/31	牛田牧師	歳末礼拝・誕生者祝福式
2024年 1/7	水谷牧師	新年礼拝・考える会
1/14	牛田牧師	おにぎり支援
1/21	水谷牧師	

